

次に、3番議員の一般質問を許します。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 通告に従いまして、一般質問を行います。

大きく2点について伺います。

1つ目は、移住・定住政策についてであります。

現在、全国のほとんどの自治体で人口減少に歯止めがかからず、地方の活力が衰退し続けている一方で、東京をはじめとする大都市に人と企業と金が集集中、地方と都会の格差はますます大きくなってきています。

しかし、そんな状況にあっても、行政及び民間レベルの熱心な取り組みによって、人口の社会増に転じている自治体もあります。昨年秋に総務民生常任委員会の行政視察で訪れた高知県の四万十町と徳島県の神山町は、その代表的な自治体です。四万十町では、移住・定住促進事業と地域おこし協力隊の活用について、また、神山町では、認定NPO法人グリーンバレーのまちづくりの先駆的な取り組みや考え方について学んできました。四万十町は行政主導による取り組みを、それとは対照的に、神山町は民間主導による取り組みが進められてきており、それぞれに特色と違いがあり、非常に興味深い視察となりました。

我が八峰町も移住を進めるために様々な取り組みをしており、一定の成果を上げていていると思いますが、若者に選ばれる町になるためには、魅力のある仕事があるかどうか大きな鍵となります。リモートワークや自由な働き方ができるように通信環境を整備し、クリエイティブな人材を呼び込む仕掛けや、神山町のグリーンバレーが実施した一定期間その地に住んで仕事をするワークインレジデンスのような取り組みが必要です。それによって、県外で働く若者やクリエイティブな仕事をしている人たちがUターンや移住、あるいは二拠点居住を考えるきっかけになる可能性があるかと私は考えます。

グリーンバレーが提唱した「若者や創造性ある人材の誘致によって人口構成の健全化を図るとともに多様な働き方が可能なビジネスの場としての価値を高めることにより、一次産業に頼らない持続可能な地域を目指す」創造的過疎という考え方を参考に、移住のターゲットを明確にし、思い切った政策によって人口の中身を変えていくべきではないでしょうか。

次に、町のホームページ改善についてです。

リニューアル後のホームページは、デザイン的にはかなり洗練されたように見えますが、肝心の使い勝手がよくなったとは言えません。総人口や世帯数等の町の基本情報や

町長の部屋、組織やカレンダー等で探す検索方法等がトップページに表示されていなかったり、知りたい情報がどこに格納されているのか分かりづらかったりと、情報にたどり着くのに時間がかかり、かえって使いづらくなつたと感じております。ホームページは分かりやすさが第一です。

昨年9月の決算特別委員会で改善できないか質問した際、検討するという回答をいただきましたが、その後の経過について伺います。

○議長（皆川鉄也君） 休憩いたします。答弁については、午後1時より行いたいと思います。

午前 11時44分 休 憩

午後 1時00分 再 開

○議長（皆川鉄也君） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

午前中の3番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 午前に引き続き、午後もよろしく願いいたします。

それでは、奈良議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「移住・定住政策について」であります。

1月23日に開催いたしました議員懇談会において、総務民生常任委員会の行政視察報告があり、徳島県神山町の認定NPO法人グリーンバレーの取り組みを拝聴いたしましたが、まちづくりにおいては、行政だけでなく、民間の力も非常に重要であると再認識したところであります。

移住については、単にほかの土地に移り住むことではなく、田舎暮らしや子育てなど様々な目的を持ち、その土地に永住する気持ちで移り住むことと捉えており、そうした場合、生計を営むためにも稼げる仕組みが不可欠であると考えております。

徳島県神山町のグリーンバレーでは創造的過疎、長野県南箕輪村では子育て支援策に力を入れるなど、それぞれの地域で様々な取り組みを行っております。両町に共通していることは、まちの立地条件などを含めた資源を生かした取り組みを行っていると、私は捉えております。

八峰町の資源は、海であり、山であり、農地であります。この資源を生かし、儲かる漁業や農業に向けた取り組みを進めていけば、若い人たちは来てくれると思いますし、また、一度町を離れた方も戻ってきてくれるものと信じております。

今、町では、サーモン養殖や菌床しいたけ栽培などにおいて若手が活躍しているほか、新規就農者数についても順調に推移しているところでもあります。

このため、まずは町の基幹産業であります一次産業に力を入れ、仕事を確保し、若い人を増やしたいと考えておりますが、議員ご提案の新たな移住・定住対策も必要であると認識しておりますので、今後は、各地域の取り組みを参考にしながら、様々な可能性を検討してまいります。

次に、「町のホームページについて」であります。

現在の町のホームページにつきましては、令和4年度に構築し、令和5年4月からリニューアルしたものを公開しており、間もなく1年が経過するところでもあります。

ホームページの構築にあたっては、プロポーザル方式により業者を選定しており、選定にあたっては、デザインも含め、行政目線ではなく、住民目線で検索しやすいものを採用しております。

現在は、情報を検索する際に、検索機能を使い、キーワードを入力することが主流となっており、ホーム画面については、より洗練されたデザインが好まれる傾向にあります。

また、各自治体のホームページを見ると、最近では本町のように、トップページに総人口や世帯数といった基本情報を掲載していないところも見受けられます。

さらに、先日放送されたエフエム秋田の番組では、パーソナリティが本町のトップページのデザインについて、非常に高い評価をしておりまして、現時点においては、ホームページへの苦情等は寄せられていない状況にあります。

昨年9月以降の改善につきましては、トップページをはじめとする基本フレームに関する部分については変更しておりませんが、ホームページの記事内容の作成等に用いる機能については、修正や追加を行っております。

いずれにいたしましても、ホームページで重要なのは掲載内容の充実であると考えておりますので、今後も適切な情報発信に努めてまいります。

以上であります。

○議長（皆川鉄也君） 3番議員、再質問ありませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 午前中の笠原議員の質問にもあったように、正に今、人口減少対策も待ったなしという状況です。

答弁の中でグリーンバレーのことについて突っ込んで触れていただいて、大変うれし

くと思いますが、四万十町は、2013年に社人研が公表した2060年の推計人口、これを見て衝撃を受け、その数に3,000人を上乗せした人口、これを保有するという長期目標を掲げました。そして情報発信の強化、住宅の整備、空き家の発掘も含まれますけども、あと各種補助制度の充実、それと地域おこし協力隊の活用等の、これらの移住政策に本格的に取り組んだわけです。その結果、平成29年から移住者数が伸び、今のところ推計人口を上回っているということです。

一方、神山町のグリーンバレー、これ民間の組織なので、行政のようにあらかじめ目標を定めて何かをやるということはしてこなかったわけです。行き当たりばったりでやってきた結果、最後には高専ができるという、そういう非常に飛躍的な発展を遂げたんですけども、この神山町はですね、人口を増やすというのではなく、過疎の現状を受け入れる、まずは。その上で、その人口を増やすことよりも、若者や創造性のある人材の誘致によって人口構成の健全化を図るということをビジョンにかかげております。アーティスト・イン・レジデンス。イン・レジデンスというのは、ある一定期間、その土地に移り住んで何かをするということなんですが、アーティスト・イン・レジデンスというプロジェクトを行ったことで、移住するアーティストが出てきたり、移住者の友達など個人的な関係をもとにした移住者、こういった人たちが徐々に増えてきました。正に移住者が移住者を呼ぶという状況が生まれたわけです。今や神山町は、国内外から多くの人たちが集まり、異質な人たちが日常的に行き交う、どこにもないユニークな町となっております。そして地方創生の聖地とまで言われるようになりました。

神山町は面積は八峰町よりも小さいんですが、人口と高齢化率はほぼ八峰町と同じ、あと面積、森林のその面積に占める率、これ大体八十何%だ、86%ぐらいですか、それも大体同じ。規模としてはよく似てるんです。ただ面積は八峰町の方が広くて、海に面してる、そこは違いますけども。

この創造的過疎という考え方、これは人口をこれから増やすのはほとんど無理だと思います。自然増というのは無理だと思います。むしろこの創造的過疎という考え方は、人口を増やすよりも現実的で、行政としてもこの考え方を取り入れやすいんじゃないかと思うのですが、そのあたりについていかがお考えでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 議員ご指摘の創造的過疎、私も先ほど少しだけ答弁の方でも触れさせていただきましたけども、この創造的過疎っていうのは、やはりこう減っていく人

口を数ではなくて中身を変えていく、そういった取り組みだと私は認識しております。そういった中において、この神山町は正にそうしたところを目指してまちづくりを進めていったというふうに思われますし、そしてまた、それが成功している事例だというふうに私も捉えております。

この八峰町、先ほど申し上げましたように、やはりこの海であったり、山であったり、そしてまた農地であったりっていうのが我々の特徴でありますし、そしてまた、この一次産業でですね、今、若い人たちが大変頑張っている状況もございますので、まずはやっぱり町としてですね創造的過疎としても非常に大事なんでございますけれども、この町の特徴であります一次産業のですね、ちょっと力を入れて、若い人たちの頑張りをしっかりと支援していきたいというふうに捉えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ありませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 今、町長おっしゃったように、まずは一次産業に力を入れる、この方針は間違っていないと思います。ただ、やはり都会に出ていった人たちでIT企業とかそういう先端的な仕事に就いてる若い人たちというのは、ふるさとに帰ってきたいという気持ちがあっても、そういう仕事がなければなかなか帰ってこれないわけですよね。そうした時に、一次産業にじゃあ就きなさい、これを受け入れるかどうかという、そこも難しいと思います。やはり今までのキャリアを諦めることなく、ふるさとに帰ってきて同じような仕事ができるのであれば、おそらく田舎に帰ってきててもそんなにデメリットがないのであれば帰ってきてくれると思うんですね。その時に通信環境がもし整ってれば、それは容易に進むんではないかと思います。神山町は2004年に全戸に光ファイバーを整備しました。このことによってサテライトオフィスが増えていったわけです。神山町がガラッと変わったきっかけが、この光ファイバーの整備です。ですから、そういうところにお金を投資するとか、やっぱりこれからはそういう新しいクリエイティブな仕事をする若い人たちとか、もっとう自由な働き方、例えば町でも半農半Xとかやってますけども、そういうような形でもっと自由度の高い働き方ができる、そういう町にならなければ、やはりじり貧になっていくと思うんですね、町が。そういう設備投資という面では、通信環境の整備を進める、これは非常に重要になってくると思うんですけども、まあお金もかかることなんですけども。長い目で見ると、そういう投資必要ではないでしょうか。そのあたりいかがお考えですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。高杉企画財政課

長。

○企画財政課長（高杉泰治君） ただいまの奈良議員の光ファイバーの整備関係のことについては、私の方からお答えしたいと思います。

神山町の方のものをしているんですけども、光ファイバーの整備を2005年ということで、また、総務省のICTモデル事業としまして2007年度に整備したというふうに記載されております。この神山町につきましては、名称見て分かりますとおりモデル事業なので、おそらく国で先行して行った際に活用した事業だと思います。

ただ、我が八峰町におきましては、平成21年度にそちらの方に申し込みまして、実際、平成22年の12月から八森地区においては、このインターネットの開設等にあたりまして、この総務省の方の光ファイバーの整備事業としまして、ICTの情報通信基盤整備事業というものを活用して整備をしてきております。

○議長（皆川鉄也君） 堀内町長。

○町長（堀内満也君） 私は、ではそれ以外の部分に関してでございますけれども、先ほど議員がおっしゃったとおりですね、八峰町、半農半X事業というものをやっております、一次産業の従事しながらですね本業であります仕事も進めていくといったことを取り組んでいるところでございます。そういった形で交流人口を増やしていけばですね、中にはこの八峰町の魅力を感じていただいて、移住・定住に繋がるものというふうに考えておりますし、そしてまたWi-Fiの整備もですね、町の施設においてはそれぞれ進めているところでございますので、そういったところを活用しながらですね今後も取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 最初に企画財政課長の方に質問しますが、この神山町の場合は、全戸に光ファイバーを整備したというふうにネット等の情報には書いてあるんですが、八峰町の場合は全戸ではないですね。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。高杉企画財政課長。

○企画財政課長（高杉泰治君） ちょっと私、神山町の方で全戸に整備した際の、その全戸にどういったものを活用してちょっと整備しているのかということ、これまではちょっと情報ないんですけども、八峰町の場合ですと、現状、事業を行うにあたりまして、通信事業者さんが光ケーブルを整備する計画がないところだけが該当する地域という形での事業でありましたので、町としましては八森地区の全域について、既存のN

Tさんなり、東北電力さんの電柱の方に共架させてもらう形で光ケーブルの方を敷設しておりまして、そちらの方をまず何ていいますか、公設民営の方針でN T Tさんの方に貸出しするような形をとって、どこの家庭であってもインターネットを使いたいということであればすぐに引き込みできる状態までを整備しております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ありませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） じゃ、町長に伺います。半農半Xですけども、これ令和6年度の予算ですけど、宿泊費の助成なくなりましたよね。それで期間が2週間から3週間に延びたということで、で、宿泊費の助成がない。これだと、よほど意欲のある人でなければ来ないんじゃないでしょうか。こんなにハードル上げてどうするんですか。これだと八峰町に来てほしいのか来てほしくないのか分からないような予算措置だと思うんですけど、いかがですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 半農半Xにつきましては、昨年参加された方々のアンケート等を見ますとですね、宿泊施設の助成は要らないんじゃないのかですとか、あるいは、無職の方がですね、結局、移動する交通費もですね宿泊費も全部出るんだったら、じゃ、行きましょうみたいな感じになってしまって、その移住・定住に結びつくのではなくてですね、ちょっとそこが、何ていうんですかね、全部ただだからじゃあ行きますっていうような形になってしまって、それだったら八峰町の魅力というよりは、その人たちがこう何ていうんですかね、生活するためにちょっと来ているというような感じになってしまって、その移住・定住に結びつかないんじゃないかなというふうに私は考えております。

いずれ去年のですね、そのアンケート結果でもですね宿泊助成は要らないんじゃないかというような参加者からの意見もありましたので、そしてまた加えましてですね、厳しい財政状況なので何か削りながらやっぱり継続しようというような思いもありまして、今回そういった予算措置とさせていただきます。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） じゃ、割と経済的に恵まれてる人が多いということですかね。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 経済的に恵まれてるかどうか分かりませんが、半農半Xですので本業は必ずあるんですよ。で、本業しながら農業なり、漁業なりを手伝うという

ような形の制度ですから、そもそもやはり無職の人が来るというのは、ちょっと私は制度に合っていないなというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ありませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 実は、つい先だって9日の土曜日ですけども、グリーンバレーの大南さんが八郎潟町に講演に来られたんです。で、私、講演聞きに行ってきました。そこで約1時間ちょっとにわたって、私が視察の報告で言ったような、三十数年にわたる取り組みをこうお話しされて、いろいろ示唆に富む言葉を聞いてまいりました。その中でですね非常にこう印象に残った言葉が幾つかあります。「ほとんどの人たちは、自分の起こした行動に対する結果を早く見たい。」「いろんなことを拙速に進めたり、雑なものを作っていったりするが、自分たちの次の世代が結果を見られればいいという考えで時間軸を長くすることによって、奥行きと広がりのあるものができるのではないか」。これはアーティスト・イン・レジデンスというプロジェクトの中で、アーティストが作った作品のことを言ってるんですけども、それは「図書館」という作品を作ったんです、アーティストが。人生の節目で出会った本をその図書館に預けるんです、3冊。で、その鍵がかかっているんです、図書館に。その3冊がどんどん時間をかけてたまっていくと、それが一つのまちの住民の歴史になっていくわけですね。でも、その図書館が満杯になった姿を、もしかしたら見られないかもしれない、自分は。だけども、自分の孫子の世代の人たちがそれを見ることになるかもしれない。ということを行っているんです。ですから時間軸はあまり短く取らないで長く取る。そうすると広がりとお行きのあるものができるのではないかということなんですね。

で、そのアーティスト・イン・レジデンスをやったことによって、移住者がどんどん増えてくるわけです。アーティストの。最初に移住したのはアーティストなんですけども、だんだんその移住した人の友達とかも移住してきて、数珠繋がりになって増えてるわけですね。そうすると、町の中に異質な人たちが行き交うことになりますよね。でも、最初は何か変な人たちが歩いているなと思ってた住民も、そのうち慣れてくるんです。それがもう当たり前の状況になってくる。ですからですね、八峰町もそういう異質な人たちをどんどん入れることによって、町の空気が変わっていくと思うんですよね。行政がそれをやるというのはちょっと難しいこともあるかもしれませんが、この最初から移住者を増やすとか関係人口を増やすとか、その型にはまったアプローチをするんじゃなくて、住民一人一人がですね、一人誰か友達こっちに引っ張るとか、そういうふ

うな意識で増やしていけば、かなりの人たちがこちらに興味を持って来てくれるんじゃないかと思うんですよね。行政はあまり表立って関係人口を増やしましょうとか、肩ひじ張ってやる必要は、私はないと思ってます。

それから、高齢化率50%超えてます、神山町も。ですが、昨年4月の神山まるごと高専、これができたことで人口がいきなり40人増えました。で、人口が1%増えて、高齢化率が0.3ポイント下がったそうです。これがこれから5年間続いたら、すごいインパクトになりますよね。15歳から二十歳までの人たちが、1学年40人とする200人いるわけですね。ですからそういう異次元の地方創生を果たした、まあ神山町は特別なケースかもしれませんが、その考え方のエッセンスを取り入れて、やはり、さっき笠原さんも、どこもやってない独自のものをやれ、やってほしいって言ってましたけども、私もそういうことを言いたいんですよね。さっきも言いましたけども、移住者を増やすとか関係人口を増やすという、そこに焦点を当てた取り組みではやっぱり、大南さんも先日おっしゃってましたが、金太郎飴のような、そういうまちになると。そうではなくて、外からやってきた人たちと一緒に何かをやってるうちに新しいことが生まれました。その外からやってきた人たちを風の人と呼んでましたけど、風の人と元から住んでる土の人、この人たちの融合で新しいことが起きてくる、そういうことをおっしゃってました。

すいません、ちょっと抽象的な話になってましたけども、その移住者と定住者との交わりについて、町長はどのような考えをお持ちなのか、そこを伺いたいです。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 移住者と定住者、昔からここにいらっしゃる方の関わりということでございますけれども、やはり新たにですね移住者を受け入れるということであればですね、やはり今までこの地域に住んでいる人たちもですね快く引き受けて、で、コミュニティを継続していくっていうのがやはり大事なかなというふうに思っております。そういった意味でですね、受け入れる側のですね気持ちだったり、そういったところをこう、八峰町の人が決して閉鎖的っていうわけではないんですけども、やはりそういった新しい変化を受け入れるような人間性だったり、町民性に変えていくことができますね、やはり移住者を増やしていくような取り組みの一つかなというふうにも思っております。

ただ、先ほど申し上げましたアーティスト・イン・レジデンスですか、異質な人を増

やすっていうところも、それはそれでひとつ手段としてはあるのかなと思いますけども、私もそこあたりですね非常に勉強不足なところもありますので、もう少しちょっと研究しながらですね、町政の方に反映できるところは反映していきたいというふうに考えています。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 町を出てクリエイティブな仕事をしている人たちが八峰町出身者にいますよね。例えばアニメクリエーターの後藤隆幸さんですか。ですからそういう人たちがですね、こちらの方に、通信環境が整っているのであれば、サテライトオフィスをつくる、つくってもらって、若い人たちの働く場所になるような状況が生まれれば非常にいいなと思うんですけども、やはりそういう人たちにもこう、これからトップセールスじゃないですけども、町長の働きかけが必要になってくるのではないかなと思います、いかがですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 今、後藤さんのお名前が出ましたので、実は昨年11月、行政報告でもやりましたけども、後藤さんとお会いしてきたところでございます。いずれ日本のアニメーターとしては日本の本当にトップクラスの方でございまして、また、この八峰町の出身ということで非常に八峰町への思いも強い方だというふうにお見受けしたところでございます。いずれこの繋がりをですね非常に私も大事にしながらですね、今後そういった議員のご指摘のような可能性があるのであれば、しっかりとお願いもしていきますし、そしてまた八峰町のPRも引き続き行ってまいりたいというふうに思っております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ありませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） やはり移住に関してはもうちょっと、こちらの柔軟に、人が減るから出さないとか、そういう囲い込みの発想ではなくて、一旦出ても帰ってこれる町、そういう町を目指して、あとは柔軟、さっきも繰り返しになりますけども、柔軟な働き方ができるようなそういう環境、そういうものをつくって行って、移住、そしてまた定住にもこだわらない姿勢、行ったり来たりでもいいんですよ。一定期間だけ住んで、行って、また戻ってきたり、そういう人たちがいっぱいいれば、一定数は保たれるわけですから、そういうふうな考え方を少し頭柔らかくしてやっていただければなというふうに思います。

それと、さっきちょっと途中で終わったんですけども、大南さんに私、最後質問しました。行政はまちづくりにどういうふうに関わってきたんですかと。そしたら返ってきた答えが、神山町の近くにあります葉っぱビジネスとかゼロ・ウェイストの取り組みで有名な上勝町ってありますけども、そこは行政主導型だそうです。でも神山町は、次々に真新しいプロジェクトをやっていくのではなくて、町民に必要なことを堅実に積み重ねていく、そういう形の行政で、下支えといいますか、この大南さんたちのまちづくりをやる端緒となりました青い目の人形、アリス人形ですね、その里帰りプロジェクトの際には、その訪問団に600万円のお金を出してくれたそうです。また、アーティスト・イン・レジデンスも毎年210万円くらい、これを25年間続けて投資してくれてるそうです。逆に言えば、行政はうまいことやっていると。汗をかくのは民間で、でもその要所要所の裏支えは行政がやってくれて、しかもそれを自分たちがやったとは言わないと。何て神のような行政であると思いますけども、こういう息の長い支援というのが大事なかなと思います。ビッグプロジェクトもいいですけども、やっぱり地道に民間を支えるという、そういう考え方も持っていたいただけたらなと思います。

1 番については以上です。

○議長（皆川鉄也君） 続いて2 問目の再質問ありませんか。3 番奈良聡子さん。

○3 番（奈良聡子さん） ホームページですが、これやっぱり町の情報の入り口となりますので、町の印象を大きく左右すると思います。使い勝手が悪いホームページでは来訪者が減っていきます。移住情報を知りたい人も興味を失ってしまう恐れもあります。

先ほど町長、今は基本情報をトップページに載せない自治体も増えているというお話しされましたけども、それがすぐそこ、リンク貼ってあってすぐ飛べればいいんですけども、今のリニューアルしたホームページはそうならないように思うんですね。1 回ではリンク、その例えば町の総人口とかという情報を探したい時に、トップページから1 回どっかに入って、またそこからどっかに入ってという形でないと見れないような気がするんですよ。やっぱり利用者の立場に立った親切で使いやすいホームページにしなければならぬと思います。

このホームページだけでなく、町全体の情報をどう発信するか。これについての、以前も私言ったことがありますけども、PR 戦略といいますかね、八峰町の情報戦略とその専任の部署が必要だと思うんです。町がどのように情報発信したいのか、しっかりとこの戦略がなければ、業者が変わっても同じことになると思います。ですから、こ

のホームページの使い勝手が悪いこと、この根底には町の情報戦略が構築されていないことがあるのではないかと思います、いかがですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 一番最初の答弁でも申し上げましたけども、このホームページ、まだ構築してからですね、改訂してから大体1年というところでございます。そういった中でやはりこう見ている人もですね、まだちょっと使い慣れないのかなというところもありまして、先ほど議員の方がなかなか総人口のところまで行き着かないというようなお話でしたけども、実はワンクリックで行き着くようなところにはなっております。

また、その情報戦略でございますけれども、確かに特化した部署というところは現時点においてもありませんけれども、今ですと企画財政課の担当者がこういったところを一手に引き受けてやっていただいといたところでございます。

一方で、先ほど山本議員の方にも答弁しましたけども、やはり町公式のLINEというのがありまして、これの登録者数を伸ばしていきながら、もっともっとう町民の方々にですね町のお知らせなんかをリアルタイムで発信できるような取り組みはやっぱり必要だなというふうに考えておりますので、そういったところには少し力を入れてやっていきたいなというふうに思っております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ありませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 先ほどの山本議員の一般質問で出てまいりましたが、今、町はDX推進計画を策定中だということで、CIO補佐官ですか、この方にその情報戦略等について相談するということではできないのでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。高杉企画財政課長。

○企画財政課長（高杉泰治君） ただいまの奈良議員のご質問にお答えします。

まず、CIO補佐官の方にこういった業務も相談することは可能です。ただ、今現在実質的にやっているというのは、計画の作り込みの仕方、手法等が今の段階では主な内容となっておりますので、今後いろいろなところに関して、こういうツールがありますよとかそういったことは、今後行っていく予定としております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ありませんか。3番奈良聡子さん。

○3番（奈良聡子さん） 町長の部屋、これが全く更新されておられません。前の森田町長もこれ苦手だったみたいで、これ最後に更新したの去年じゃないですかね。

○町長（堀内満也君） そうですね。

○3番（奈良聡子さん） ええ。是非更新してください、短くてもいいから。長く書く必要はないんですよ。苦手ですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 決して苦手なわけではないんですけども、なかなか、ほかの市とか大きいところに行きますと、いろんなとこにですね秘書さんが付いてきて、その写真をですね、その秘書さんが撮ってアップするというなやってるんですけど、私、結構一人でいろんなとこ行くもんですから、なかなか自撮りっていうのはちょっと苦手でございますけれども、いずれですね更新の頻度をですね、もう少し意識しながら町政運営していきたいと思っております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ありませんか。

○3番（奈良聡子さん） 以上で終わります。

○議長（皆川鉄也君） これで3番議員の一般質問を終わります。

休憩いたします。45分から再開いたします。

午後 1時37分 休 憩

.....